

1. 第四期中期目標策定時における都内中小企業や都産技研を取り巻く環境

【社会経済情勢】

- 少子高齢化、労働力不足といった社会経済構造の変化
- Society5.0を見据えたデジタル化への対応
- S D G s を意識した取組への対応
- 新型コロナウイルス感染症の流行を契機に非接触技術等を活用した新しい社会への対応

【都政の動き】

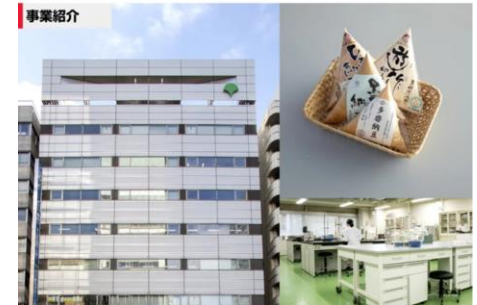
- 「未来の東京」戦略ビジョン（R1年12月）
 - ・ 5G関連機器等の製品開発やA I、I o T、ロボットの技術開発支援
- 東京都中小企業振興ビジョン（H31年1月）
 - ・ 次世代ものづくりや革新的な製品・サービスの創出に向けた支援
 - ・ 社会的な課題解決に向けた開発支援
- 食品産業振興に向けた支援方針（R2年7月）
 - ・ 工学面の幅広い技術・知見を取り入れることで、技術面でのサポート体制の充実を図るため、都産技研と食品技術センターを統合する方向性を提示



【DX推進センター(R2年度～)】



【ヘルスケア産業支援室(R2年度～)】



【食品技術センターの統合（R3年度）】

2. 令和3～5年度の主な取組・成果

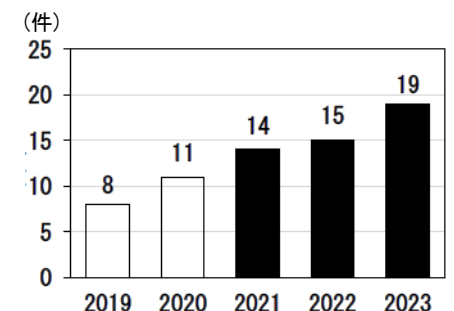
○ 第四期中期計画における数値目標（K P I）は**現時点で概ね達成見込**
・ 中小企業との**共同研究等**を通じて、**製品化・事業化**に寄与

○ D X推進センターを拠点として、**IoT、ロボット技術等の社会実装を促進**
・ **5 G・IoT・ロボット技術**を活用した製品開発、
展示会出展・交流会の運営を通じて**研究成果を普及**

○ 環境やQ O Lの向上など、**社会課題の解決に資する分野**における
中小企業の**新技術・新製品**の開発を支援
・ 循環経済事業への参入、障害者用具等に関する製品開発を支援

○ 食品技術センターを統合し、**食品産業における技術的課題の解決や
地域資源を活用した食品開発等**を支援

- ・ 介護食品、代替肉、機能性食品等の技術開発に係る研究、
輸入小麦高騰に対応する製品の開発支援
- ・ 食品技術センターの有する**食品技術と都産技研の有する
工業技術の相乗効果**を発揮し、技術支援・食品開発を支援



【共同研究の実績により
製品化・事業化へ展開した件数】



【栈橋点検支援ロボット】



【パラ・バドミントン用】
※東京2020大会メダル獲得



【一般・日常用】



【大麦・米粉・発芽玄米等
を活用した小麦代替食品】



【食品・工業技術の相乗効果で
オーツミルクの製品化支援】

3. 現在の都内中小企業や都産技研を取り巻く環境

【社会経済情勢】

■ 少子高齢化、人口減少の更なる進展

- ・ 労働力不足に対応するため、**D X**等による**生産性向上**が必要

■ A I等テクノロジーの爆発的進化

■ 気候危機の深刻化

- ・ 脱炭素、**G X**などの市場規模は今後も拡大見込み

■ 持続可能な賃上げへの対応

- ・ コスト削減に加え、**技術・製品開発**を通じた**付加価値を高める取組**を行う事業者への支援が必要

【都政の動き】

■ 2050東京戦略（案）（R7年3月末策定予定）

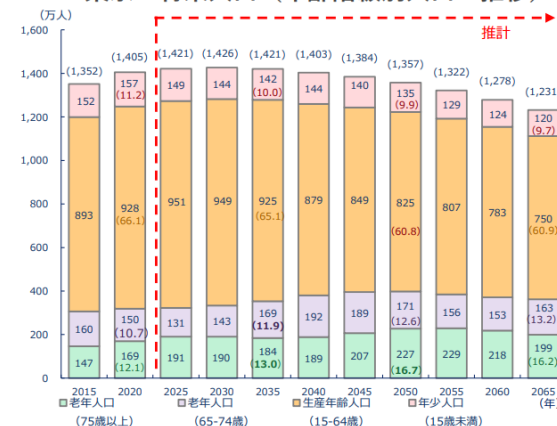
- ・ 子育て、女性活躍、長寿、ゼロエミッション、防災、都市の強靱化など、**28の戦略**を提示
- ・ 中小企業の**成長産業への参入・投資**を進め、東京の経済を活性化
- ・ **物価高騰**や**人材不足**など様々な中小企業の課題に迅速に対応するとともに、**海外展開**など企業の成長を支援
- ・ 都の重要課題解決や政策立案に寄与するよう、**試験研究機関と連携強化**

戦略の実現、山積する都政課題解決に資する中小企業等の取組支援が必要

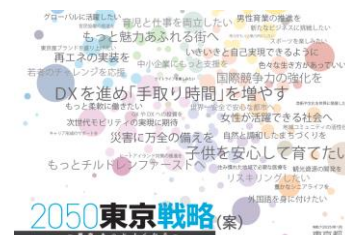
■ スタートアップ戦略「Global Innovation with STARTUPS」（R4年11月）

- ・ 成長を牽引するスタートアップを**関係者が総力を挙げて一体的に支援**

東京の将来人口（年齢階級別人口の推移）



（出典）「『未来の東京』戦略 付属資料 東京の将来人口（令和6年8月改訂）」



Global Innovation
with STARTUPS

Tokyo Metropolitan Government

これらの環境を踏まえ、研究開発・技術支援の更なる強化を柱とした中期目標を検討